



[はるのびより1面](#)



[はるの2](#)

山里の魅力発信、まちなかとの交流と定住促進も

1月23日、NPO法人楽舎(浜松市天竜区春野町気田)は、町内と市内、まちなかにむけて情報誌(はるのびより)を発刊した。無料配布で1万5千部。

過疎化のすすむ中山間地の春野町は1950年代には人口は1万5千人いたが、いまはその三分の一以下と減少。過疎高齢化がすすんでいる。

一方で、「田舎暮らしをしたい」という若者世代、定年退職者は増えている。NPO法人楽舎には、移住相談が毎月、寄せられる。この5年間で200組余の相談を行い、その縁で移住したのは10組を超える。

仕事がない、空き家がない、地域との付き合いが難しい

移住にあたっては、「仕事がない」「空き家がない」「地域との付き合いが難しい」という3つの課題がある。

けれども、仕事をつくり、空き家を見つけて改装し、地域と溶け込んで活躍している移住者も多い。そうした移住者たち、そして地元の人たちを紹介していく。地元の人たちの移住者に対する理解が増し、まちなか人たちは春野町の魅力を知り、田舎暮らしへの関心を寄せていくことになる。

交流事業でさまざまなイベント、講座も案内

地域情報誌「はるのびより」は隔月に発刊。春野町地域の情報、移住者の暮らしぶりとともに、交流事業でさまざまなイベント、講座も案内している。

春野の歴史講座、仏教の源流インドの講座、山里のインターネット入門、伝わる文章教室、アイルランド民謡のコンサート、幼児への絵本の読み聞かせ、田舎暮らし入門講座など、多彩な内容である。すべて参加費は無料。連絡先は、NPO法人楽舎(053-989-1112 池谷 info@rakshajp.net)まで。

<浜松北部地区担当 生きがい特派員 池谷 啓